

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立納所小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力向上アクションプランのPW→GW→CWの授業形式に書く活動(自分の考えを書く、ふり返りを書く)を取り入れた研修を進めることができた。「理由をはっきりさせたり、例をあげたりして、自分の考えを書く」ことができた児童が80%以上となり、授業改善が進んでいる。次年度も授業のねらいを明確にし、児童自身が問題を解決していく授業を組み立てることで、学力の確かな定着に取り組んでいく。</p> <p>・毎月実施している「なかよしアンケート」をもとに、児童の学校でのがんばりや悩みを把握し、賞賛や指導を行うことはできた。いじめの対応については、研修会を定期的に行うとともに、日頃から児童の様子について話し合える教職員集団であることを心がけてきた。SCやSSWを交えた研修会を次年度も実施し、児童にもっと寄り添うことができる教職員集団を目指す。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	「納所がすき!」「学校がすき!」と言える子どもの育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<p>○「心を育む活動」の充実・・・か(感じて考えて動く心づくり)      ○「主体的に学ぶ力の育成」・・・ぜ(全力で学ぶ意欲づくり)</p> <p>○「連携教育」の強化・・・つ(つながって学ぶ環境づくり)      ○「自己有用感・肯定感」の向上・・・こ(根気強くやりぬく姿勢づくり)</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標      中間評価      5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員を80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。							学力向上対策コーディネーター 研究主任
	○学習意欲と成就感を育む授業づくり	○「自分の考えや思いを書く活動ができるようになった」に質問に対して、肯定的な回答をする児童を80%以上にする。	・音読活動を授業の始まりに行う。 ・本時の学習課題に対してキーワード等を示してまとめさせたり、振り返りも視点を与えて取り組ませたりする。							学力向上対策コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分から進んでの「あいさつ」や丁寧な「言葉づかい」ができる児童を80%以上にする。	・「あいさつ運動」を実施したり、「言葉づかい」について考える授業を行ったりして、意識付けと実践化を図る。							道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 生活部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめについて組織的対応ができていると回答した教員90%以上にする。	・毎月なかよしアンケートを実施する。生活指導協議会では、気になる児童への支援の在り方について話し合う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。							生徒指導主事
	◎特色あるふるさと学習・体験学習の充実	○地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ学習を通して、「地域が好きだ」と答える児童を80%以上にする。	・生活科では「肥前町の施設を知る」学習、総合的な学習の時間には「ふるさと体験学習」を計画的に入れ、児童が郷土に興味関心をもつ授業を実践していく。							
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童を80%以上にする。	・食に関する意識調査を年2回実施し、その結果をもとに、学級活動や保健の時間に「食の大切さ」を考える授業を実施する。							保体部 各担任
	○体づくりにつながる運動遊びの奨励	○学校で多様な運動遊びを楽しむ児童を80%以上にする。	・県スポーツチャレンジの種目や運動遊びを紹介し、多様な運動に親しませる。							保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 ○月平均45時間を守る教職員を100%にする。	・定時退勤日を設定する。 ・学年毎で使用するデータの共有化を図る。							管理職 各担任
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○一人一台端末の活用	○タブレット端末の活用	○タブレット端末を使って指導法改善に取り組んだ教員を100%にする。	・教育情報化推進リーダーとICT支援員を中心に校内研修を実施する。 ・タブレットを使用した授業を計画・実施して、効果的な活用を図る。							教育情報化推進リーダー 学力向上対策コーディネーター
○特別支援教育の充実	○個に応じた教育の充実	○児童への配慮や心構えが向上したと答える教員を80%以上にする。	・校内支援委員会で、支援のあり方について見直しを図り、そのことを職員に提示し、実践を行う。 ・校内研修で、スクールカウンセラー等を講師にして支援のあり方を学ぶ研修会を行う。							教育相談担当

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--